それぞれのお供ペンは?

スパートナーとしてのパフォーマンスに関するエピソードは、"お供ペン"探しの参考になるはずです。

企業年金コンサルタント
朝妻則子(あさづま)さん

●"Dr.グリップ"のシャープペンシル(右)&ボールペン(左)
●"モンブラン"のボールペン(中)

以前は「男性向けのペン」と意識していた"モンブラン"のボールペン。「石が付いたデザインを見かけ、美しさに魅了されました。ペン先を繰り出す動作すら今は楽しい!」力をこめずに文字を書ける"Dr.グリップ"は長時間の筆記用。「ポピュラーなタイプよりエレガントなこのデザインは、案外、知られていませんよね」

"私"を印象づけるツールのひとつ。書き味のよいものが最良のお供ペンです

大学卒業後、金融機関などで、主に、企業年金関連の業務に従事する。現在の勤務先では、国内出張も多く、多忙な日々。仕事柄、ペンを使う場面は数多いそう。

「職業柄、作業効率を上げるためには、機能的なペンに頼らざるをえません。スムーズに仕事が片付き、美しい文字を書いた後の達成感は心地よく、身が引き締まります。ペンや文字は、第一印象を決定づけることもあると思い、上質なペンを求めて、時間を見つけては、文具店をのぞくのが習慣になりました」

内科・美容皮膚科医
片桐衣理(えり)さん

●"アビステ"のボールペン

診察室に入ると、真っ先に目を奪われ、尋ねずにはいられないキラキラペン。実際、「ボールペンを通じて会話が弾み、患者様の緊張がほぐれることもある」とか。身の回りの色で、自分をコントロールするそう。「優しく穏やかな気持ちになれる効果があるので」、手帳もピンクを。携帯電話もピンクのラインストーンでデコレート。

ボールペンは、「先端美容」の延長。女性である喜びを実感させてくれます

安全性・信頼性のもとに高いケアを提供する「衣理クリニック表参道」院長。自身のブログ内でも、今回のボールペンが紹介されている。
www.eli-crinic.com

「私にとって、ボールペンとは、まつげやネイルなど、美しさの仕上がりを左右する「先端美容」の延長。そのため、女性ホルモンに働きかけるとされる、ピンクと輝きの両方を備えたものを使っています。職場で手にし、「忙殺されず、女らしくあろう」と気持ちをリセットする瞬間、幸福感に包まれます」

自動車メーカー広報
キャロリーヌ・ドゥゲゼルさん

●"クロス"のシャープペンシル(右)
●"エス・テー・デュポン"のボールペン(左)

印鑑が存在しないヨーロッパでは、様々なシーンで手書きのサインが必要であり、インク入りのペンはとても重要な存在だとか。「「常に手元にあり、形を変えない友情に代えて」、同僚が選んでくれた」というボールペンは、中央のリングを気分で付け替えて。日本に赴任したタイミングで購入したシャープペンシルは、手帳用。

ベルギー人が持つペンは、どれも「象徴的で意味深い」大切なものです

'99年にルノー・ベルギーに入社、ルノー・フランスを経て、昨年、日産自動車へ。ルノー・日産のアライアンスPRを担当。予定や議事録は英語、フランス語で記す。

「出身国・ベルギーでは、ペンは"象徴的な贈り物"とされています。カトリック系の家庭では、6歳と12歳の子供に"大人の証"として、大人たちは、ビジネス上のパートナーに"信頼関係の証"としてペンや万年筆を贈ります。私が毎日使うボールペンは、来日時に同僚から贈られた"友情の証"です」